

# 日和佐沖大型魚礁のROV調査

住友寿明・藤岡保史・増田多生・楠本輝一・  
今治美久・萩野鉄男・上田幸男・高木俊祐\*

沿岸漁場整備開発事業の日和佐地区大型魚礁設置事業により平成10年度に海部郡日和佐町沖に設置された大型魚礁の設置後の状況を明らかにし、今後の事業推進の為に資する。

なお、本調査は平成12年度沿岸漁業整備開発事業により実施した。

## 材料と方法

平成13年2月23日に海部郡日和佐町沖(日和佐町阿瀬比灯台より199° 6100mの地点、日本測地系位置N: 33°40.762 E: 134°32.881, 世界測地系位置北緯N: 33°40.762 E: 134°32.881)水深79mに設置された大型魚礁について、漁業調査船「とくしま(総トン数: 80トン 主機関1200ps 全長32.71m)」に搭載された広和株式会社製水中テレビロボットMARINE VEGA200m仕様ソナー付き(以後ROVと称す)を用いてビデオ撮影を実施した。撮影にあたっては船尾より2本の用錨を実施し、魚礁上に調査船を固定した。

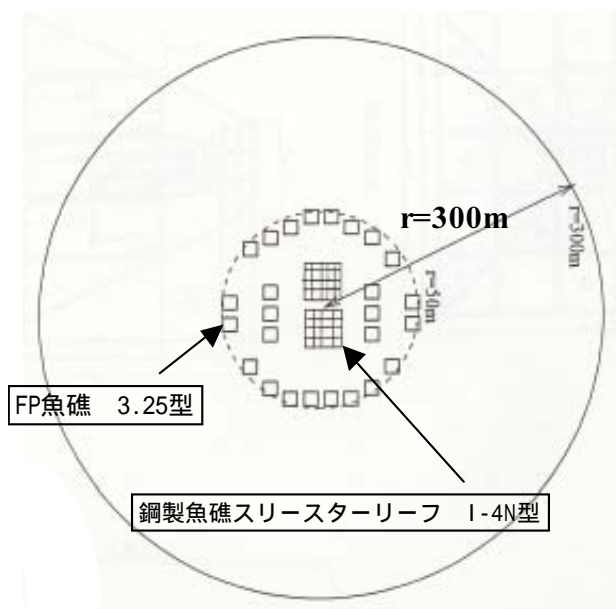


図1 日和佐沖に設置された魚礁の平面配置図

大型魚礁は中心部に鋼製魚礁スリースターリーフ I-4N型 2基, FP3.25型 33個が周囲半径50m内に設置されている(図1,2参照)。

なお、調査にあたっては、広和株式会社より派遣されたオペレーターとともに水試職員がROVを操作した。

## 結果と考察

ROVによりFP3.25型魚礁群および鋼製魚礁スリースターリーフ I-4N型(写真1,2)を確認した。魚礁は砂底質上に沈設され、破損、洗掘及び埋没はなく、良好な状態であった。ソフトコーラル、ムチャギおよびその他サンゴ類など豊富な付着生物が確認され、餌料生物が豊富に供給されているものと推察された(写真3)。魚類としては小型マジジおよびネブツダイの群が観察された(写真4~6)。その他、タイ型の大型魚(写真5)が数尾観察されたが、種の査定には至らなかった。また、魚礁の上層(水深約30~40m)にズキ型の大型魚類が群泳しているのが観察されたが種の査定にいたらなかった。

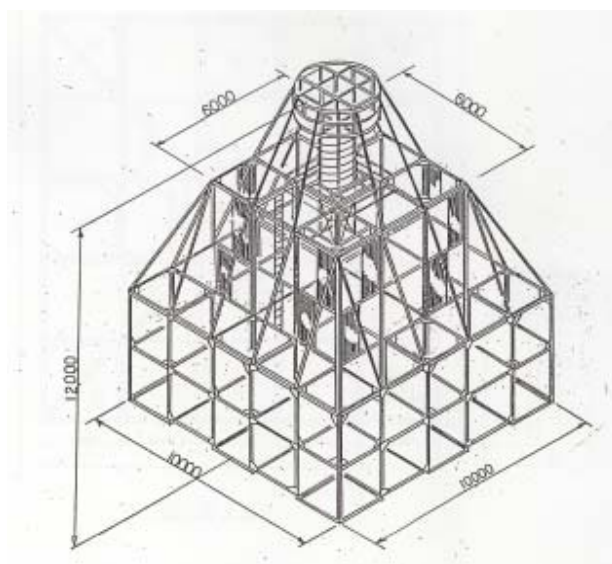


図2 鋼製魚礁スリースターリーフ I-4N型の鳥瞰図

\* 徳島県水産課



写真1. 鋼製魚礁スターリーフ I-4N型の上から見た外観



写真2. 鋼製魚礁の内部

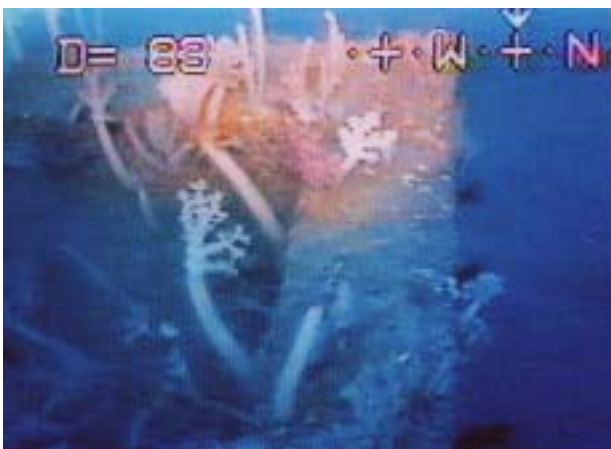


写真3. FP3.25型魚礁上部に付着するソフトコーラル



写真4. 鋼製魚礁下部で群泳する小型のネンプツダイ



写真5. FP魚礁内部で群れる小型魚と大型魚。底質は砂



写真6. FP魚礁内部で群れる小型魚